



環境
自然



伊庭貞剛

29
まいん

こうすいろかいしょ 坑水路会所

二十世紀初頭に輝く
環境問題克服の巨大システム



山中に残る最大級の坑水路と会所

こうすいろ 坑水路^{かいしょ}会所

は、坑内排水の流れる方向を変更する際に利用される設備です。

会所水留池とも呼ばれ、上流から流れ込んできた坑内排水を会所で溜めることによって流れを止め、無理なく方向を変えるしくみになっています。

坑内排水は地表から浸透した水が鉱石と接触することで鉱石内の銅や鉄などが水に溶け出し、強い酸性の水に変化してしまいます。この水を川に流すと稲を枯らすなどの環境汚染を引き起こすこととなります。

住友家2代目総理事の伊庭貞剛は、坑内排水を国領川水系に流れ込むのを防止するため、明治38年(1905)11月に第三通洞(海拔747メートル)の出口から、新居浜惣開の海岸まで坑水路を築造しました。



坑水路会所



東平街道沿いに残る木製電柱

その坑水路は総延長16キロメートル余りに及ぶもので、第三通洞坑口から木製の水路を連ね、途中、水流変更箇所には会所を設置し、急流部分は煉瓦水路としました。東平から端出場までの山中は山道沿いに、また端出場からは下部鉄道沿いに惣開まで延々と伸びていました。

途中、山根に坑内排水を処理する収銅所を設けて、安全な水にして海に流しました。



すべりざか
に 坂の地蔵さん



マイントピア別子端出場ゾーンに残るレンガの坑水路

これな～んだ?

東平街道中に設置されています。ヒントは上に人がいます。

答えは、裏にあります。

